

2018年を振り返って

- 約8年前の東日本大震災の復興も途上の中、熊本地震、九州北部豪雨に震撼したのもつかの間、今年は西日本豪雨に大阪北部地震に北海道地震が起き、未だ不自由な暮らしを強いられている方々がおられることに心が痛みます。あなたの町も家も防災・減災準備はできていますか。
- 今年のノーベル平和賞は武力紛争下での性暴力に果敢に取り組んできた2氏が受賞。そしてアメリカから起きた#MeToo運動は、セクハラ、パワハラに脅かされてきた女性の人権尊重を大きく社会問題化しました。しかし日本ではメディアでの扱いも弱い。
- 意思決定や指導的地位に女性の視点が少なすぎと思いませんか。だから女性議員増法（「政治分野における男女共同参画推進法」）の成立はとても嬉しいニュースでした。女性議員が増えると政治は必ず変わります。女性議員を増やしましょう。

3.11の体験を伝え、記録を残す～仙台市の今



▲**せんだい 3.11 メモリアル交流館**は地下鉄荒井駅内。東日本大震災を知り学ぶための場であるとともに、津波により大きな被害を受けた仙台市東部沿岸地域の玄関口である。親切に丁寧に説明くださった花淵みどりさん（左写真）の家も流されましたが夫様は自衛隊のヘリに救助され無事でした。右写真の下の数字は余震の大きさと頻度を示しています。



▲2011年3月11日の仙台。7mを超える津波で死者904名、行方不明者27名、最大人口の10%に当たる10万人が避難所に避難したそうです。児童・職員・住民320人が避難し2階まで津波が押し寄せた**荒浜小学校**（左写真）。津波による犠牲を再び出さないために**震災遺構として公開**しています。▲降雪の朝、訪問者のいない校舎を私一人のために案内くださった鈴木憲一さんに感謝。最近では尋ねる人も減少しているそうです。右写真は仙台市沿岸部に位置し800世帯2,200人が暮らしていた集落の模型。今はない家々の表札に涙腺が緩んだ。12/12

あれから8年 わたしたちはフクシマを忘れない

～＜二点居住＞という生活のかたち～

標記のシンポジウムが12月8日（土）早稲田大学にて催された。浪江町や富岡町から避難し現在東雲住宅にお暮しの方々。新しく住宅を建て新生活を始めた方と、未だに毎月浪江町のわが家に帰り今後の方向性を決めかねている方など、二点居住の形だけでなく、心のありようも一点化できない8年目のもどかしさを垣間見た思いでした。主催：シニア社会学会。本シンポは4回目を迎えたそうです。（渡辺）

西東京市民まつりに行ってきました



①**みちのくまほろば会**のテント。手作品はどれもきれいで温かい。渡辺は真綿でできた袖なしちゃんちゃんこ「ねこ」を購入。軽くてあったかくて便利です。11月11日（日）西東京市いこいの森にて。



②**西東京市福島県人会**のテント。ここでもアイデア満点、素敵な手作品が一杯！福島県人会の皆様・松崎さんにはいつもお世話になっています。感謝！

女たちの討ち入りシンポ

高齢女性の災害のあとさきを追跡調査

NPO 法人高齢社会をよくする女性の会恒例の標記イベントが行われた。どのような災害でも死傷者の多くを占めたのは高齢女性達。策を練らねば。樋口恵子さんはじめ堂本暁子元千葉県知事、潮谷義子元熊本県知事、男女共同参画局長ほか見識豊かなメンバーのお話は有効でした。最後は忠臣蔵風陣太鼓の打音とともに、今年の提言が披露されました（写真）。12/15



私たちは東日本大震災を忘れない。これからも、ずっと……東北・フクシマを応援します